



こんな本も読んでみましょう

選者：日本女子大学家政学部児童学科 教授 石井 光恵

日本の  
昔話

## 「くわずにようぼう」

けちんぼうは、やっぱりそんをする

けちんぼうな男が、めしをたべずに、よくはたらくよめさんをもらった。しめしめ。でも、どこかへん。かげからそっと見ていると、たいへん！よめさんは山んばで、にぎりめしを山ほどつくって、あたまにあいた口からばくばくたべる。わわわ！すがたを見られた山んばはおこって、男におそいかかり…。ひゅー！

日本の  
昔話

## 「うみの水はなぜしおからい(しおふきうす)」

うみの水がしおからい、そのわけは？

まわすとほしいものがなんでもでてくるふしぎなうす。そのうすをよくふかいにいさんがぬすんだ。ふねのうえで「しおでろ、しおでろ」といって、うすをまわすとどんでんでてくる。でも、にいさんはとめかたをしらない。しおのおもさでふねはずみ、うみのそこでうすがいまもしおをだしているんだって。

日本の  
昔話

## 「ふしぎなたいこ」

はなをたかくしたり、ひくくしたりできるふしぎなたいこがあったら

むかし、げんごろうという男が、ふしぎなたいこをもっていた。トントンたたいて「はな、たかくなれ」というとはながどんだんのびてたかくなる。どこまでのびるかためしたら、天までたかくのびたけど、なにかにひっかかってしまった。びっくりしてはなをひくくしようとする、こんどはげんごろうの体が天へとあがっていき…。

日本の  
昔話

## 「へっこきよめさん」

へ(おなら)で、みんなをよろこばせたよめさん

はたらきものでかわいいよめさんがいた。でも、そのよめさんのたったひとつのけてんは、すごいへ(おなら)をしてしまうこと。そのへのすごいなんの。なにかもふきとばしてしまうので、おおよわり。ところがある日、そのすごいへでみんなをおよろこびさせることができ…。へをする、へやをつくってもらったんだって。